

餘慶寺本堂



指定区分	国指定重要文化財(建造物)
読みかた	よけいじほんどう
所在地	瀬戸内市邑久町北島
指定年月日	昭和54年5月21日
解説	永禄13年(1570)の再建棟札がある。建立当初は桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺。江戸時代に唐破風造りの向拝が増築される。妻飾は二重虹梁大瓶束式。軒は二重繁垂木。円柱上に和様の出三斗を組み、中備[なかぞなえ]に蓑束[みのづか]を置いている。内陣(三間四方)の天井下板壁には観音二十八部衆の彩色像が描かれている。また、内陣内の須弥壇や厨子には桃山期の特徴をもつ優れた装飾が施されている。厨子には、本尊の千手観音がまつられている。室町時代末の伝統的密教本堂の形態を残す遺構。
アクセス方法	JR西大寺駅から車で15分(約4km)、JR大富駅から徒歩20分(約2km)
公開状況	JR西大寺駅から車で15分(約4km)、JR大富駅から徒歩20分(約2km)
設備	駐車場  トイレ 
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	餘慶寺本堂
よみかた	よけいじほんどう
しょざいち (所在地)	瀬戸内市邑久町北島
していつひ (指定した日)	昭和54年5月21日
せつめい	1560年(ねん)に建(た)てられた大(おお)きな本堂(ほんどう)です。餘慶寺(よけいじ)は、天台宗(てんだいしゅう)の大規模(だいきぼ)なお寺(てら)で、古(ふる)くは備前四十八ヶ寺(びぜんしじゅうはっかじ)のひとつでした。本堂以外(ほんどういがい)にも、三重塔(さんじゅうのとう)が県指定重要文化財(けんしていじゅうようぶんかざい)になっています。